

留学生家族との交流を終えて

横浜国大部会 伊藤 真一(日本航空OB)

私は三井V-Net横浜国大部会に4年前に入会しました。2年前から留学生家族との交流がスタート、今年はコロナ禍の中での交流を含め、この2年間の交流は私にとって今までに経験したことのない出来事が幾つかありました。

(1)アパート探しと食事会

この留学生との交流は2018年10月に始まりました。その年の12月半ば頃、留学生から突然アパート探しを頼まれました。

マレーシアにいる家族(ご主人と子供2人「4歳の男の子と6歳の女の子」)と翌年3月から日本で一緒に暮らしたいということでした。私は、日本語が話せない外国人には日本で不動産屋との交渉は難しいだろうと同情し、心よく引き受けました。私は、すぐに見つかるだろうと安易に考えていましたが、留学生の希望するアパートを見つけるのに年末まで要してしまいました。その後の不動産屋との契約書作成や電気・ガス・水道会社への手続きは私が代行をしました。

年明けの1月半ば過ぎに、留学生からアパートでの「食事会」に招かれました。10人程参集していたマレーシアの人達に加わり、初めて口にするマレーシア家庭料理を食べながら談笑したことは良い思い出となって残っています。



2019年1月 留学生のアパートにて

(2)アマル君入園と城ヶ島旅行

私は3月初めに留学生から、来日したばかりの家族(ご主人と子供2人「4歳の男の子アマル君と6歳の女の子ソレハちゃん」)を紹介されました。数ヶ月後、留学生から市役所での入園申請のヘルプを頼まれました。程なくアマル君の入園する保育園が決まり、私は留学生の通訳として入園説明会に同席しました。

今年の年始に、行き付けのレストランで留学生家族とランチを食べていた時、留学生が私に言いました。「最初の一年は、授業のスケジュールがタイトだったので、三井V-Netが提供してくれたイベントになかなか参加できなかったけど、伊藤さんや三井V-Netの皆さんと一緒にいった城ヶ島ツアーは、私たち家族にとって忘れられない旅行でした。そこで見た景色は、雄大で、そこから見える富士山はとても素晴らしかった」。実は、私も城ヶ島へは初めてで、その壮大な景色には感動させられました。



2019年10月 城ヶ島にて

(3)会うは別れ

アパート退去の日(2020年9月19日)。私は朝早く引越しの状況を知るために留学生のアパートに行きました。前夜は夫妻とも一睡もなかったようで、荷造りやごみの袋詰めに追われていました。私もごみ出しを手伝い、昼前には引越し作業は終了しました。しばらくすると、留学生の友人が運転する迎えの車がアパートの前に到着しました。留学生家族は、私としばし別れの挨拶を交わした後、成田に向けて出発して行きました。

別れ際に私に言った留学生の言葉が今でも私の胸に深く響いています。
「最初から最後まで私たち家族を支援してくれて、本当に感謝しています。あなたは、私たち家族の父親のようでした。また必ず日本に来ます」。

以上